

## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	教育 0-1
1. 商学部	教育 1-1
2. 商学研究科	教育 2-1
3.アントレプレナーシップ専攻	教育 3-1



## 学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況	教育成果の状況	質の向上度
商学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
商学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
アントレプレナーシップ専攻	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している



## 商学部

I	教育の水準	.....	教育 1-2
II	質の向上度	.....	教育 1-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 教育開発センター、国際交流センター、ビジネス創造センターの機能を連携・融合し、全学的な教学マネジメントの下で効果的な教育支援を行うため、学長を長とするグローバル戦略推進センターを平成 27 年度に設置し、アクティブ・ラーニングの促進、グローバルマネジメント副専攻プログラムの運用等を実施している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 地域志向教育、グローバル教育、外国語教育等を組み合わせた「グローバル人材」を育成するための学科横断型の教育プログラムとして、グローバルマネジメント副専攻プログラムを平成 27 年度から実施している。当該プログラムは、地域キャリア教育科目群、グローバル教育プログラム科目群、言語文化教育科目群の3科目群を配置しており、23名の学生が履修している。
- アクティブ・ラーニング用に教室を改修するとともに、サポートセンターを設置して、教員に対して機器の使用等の支援等を実施している。アクティブ・ラーニング用の教室を利用した授業科目は、平成 24 年度の 16 科目から平成 27 年度には 95 科目になっている。
- 地域に根差した独自の特色ある教育として、平成 27 年度からグローバル戦略推進センターが中心となり、地域視点を養う「地域学」、「地域活性化システム論」、「グローバリズムと地域経済」を実施している。

以上の状況等及び商学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 期待される水準にある**

**〔判断理由〕**

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生ベンチャー企業が制作した「デジタルサイネージ（電子看板）」が「2014年度グッドデザイン賞」を受賞しているほか、学生が「キャンパスベンチャーグランプリ北海道」や「日経STOCKリーグ」等でも受賞している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において、卒業生のうち平均約85%が就職し、就職希望者数のうち就職した者は平均で96%以上となっている。特に平成27年度においては、女子の就職希望者は全員が就職している。また、主な就職先としては、金融業・保険業が28%、卸売業・小売業は13%となっている。
- 第2期中期目標期間において、卒業生のうち大学院等への進学者は、合計で70名となっている。

以上の状況等及び商学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 27 年度にグローバル戦略推進センターを設置し、アクティブ・ラーニングの促進やアクティブ・ラーニングに係る教員への支援、初年次教育及びキャリア教育科目の実施、グローバルマネジメント副専攻プログラムの運用等を実施している。
- 「グローバル人材」を育成するためのグローバルマネジメント副専攻プログラムを平成 27 年度から実施しており、23 名の学生が履修している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 地域連携 PBL (Project/Problem Based Learning) 正課科目「地域連携キャリア開発」が、「日本インターンシップ学会 2015 年度榎本記念賞」において「秀逸なるインターンシップ」として表彰されている。
- 学生によるベンチャー企業等は、第 1 期中期目標期間（平成 16 年度から平成 21 年度）の 1 社から第 2 期中期目標期間の 3 社となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

## 商学研究科

I	教育の水準	.....	教育 2-2
II	質の向上度	.....	教育 2-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生に対する教育・研究指導体制について、博士前期課程では、入学時に正指導教員を決定した上で必要に応じて指導教員の追加を可能としており、博士後期課程では、学生の入学時から複数指導教員体制を設けている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生が学位論文を提出するまでに中間報告や審査等を課すなど、研究の進捗状況の管理を行っているほか、博士後期課程では1年次後期から博士論文指導を半期ごとに履修することとしている。また、平成27年度に学生を対象に実施した大学院FDアンケートでは、「十分な研究指導」の項目は5段階評価で平均4.8となっている。
- 学生の語学力向上のために、アカデミック・トレーニング科目として英語で論文を指導する「学術英語」を実施している。また、現代商学専攻の国際商学コースでは「異文化理解とコミュニケーション」を基本的に英語で実施し、実践的な英語能力の向上を図っているほか、英語専修教員免許の取得を可能としている。

以上の状況等及び商学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成24年度の博士後期課程の学生による研究論文が、第1回碩学舎賞の奨励賞を受賞している。
- アントレプレナーシップ専攻の学生による授業評価アンケートの授業満足度（全科目平均）調査によれば、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）では、5段階評価で平均4.3以上となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間の就職率について、博士前期課程は平均で約 71% となっており、主な就職先は、金融、メーカー、流通、公務員等となっている。また、学生が主として有職の社会人であるアントレプレナーシップ専攻では、修了後、経営者となった者は 10 名となっている。
- 博士前期課程から博士後期課程へ進学した者は、第 2 期中期目標期間においては 7 名となっている。

以上の状況等及び商学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 博士前期課程では、多様な授業科目の選択を可能とするため、北海道大学大学院法学研究科や同経済学研究科との間で単位互換を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の就職率について、博士前期課程は平均で約71%となっており、主な就職先は、金融、メーカー、流通、公務員等となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

## アントレプレナーシップ専攻

- I 教育の水準 ..... 教育 3-2
- II 質の向上度 ..... 教育 3-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）については、グローバル戦略推進センター教育支援部門専門職大学院教育開発専門部会を設置し、教員同士による授業参観、意見交換、採用初年度の教員との合同講義等、授業改善のための取組を実施している。
- 修得した知識を基に解決策を構想する力を養うための実践科目「ビジネスプランニング」や「ケーススタディ」、「ビジネスワークショップ」等を開講し、複数の教員によるチームティーチングを行うことで、学生が経営者として必要な総合的な案件理解や計画立案ができるような指導をしている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- ノースウェスタン大学（米国）と連携した「特殊講義Ⅲ（ノースウェスタン大学集中講義）」を実施しているほか、成均館大学（韓国）と連携した日韓比較経営研修を韓国で実施している。
- 北海道大学大学院保健科学院及び農学院との間で MBA 特別コースの協定を締結しており、平成 24 年度からは、同大学院工学院、情報科学研究科及び総合化学院と、平成 27 年度からは、同大学院生命科学院と協定を締結して、学生の受入を行っている。
- 経営管理に関する最新の知識に基づき、具体的な企業事例を取り入れた教育課程を編成しており、1 年次には会計・財務、マーケティング分析、組織分析等について、2 年次には戦略的課題の発見や最良の戦略案の選択及び実行プランの作成等について学修している。

以上の状況等及びアントレプレナーシップ専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 期待される水準にある**

**〔判断理由〕**

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 起業家精神を養い、問題・課題解決型の人材を育成する教育事業プロジェクトである「キャンパスベンチャーグランプリ北海道」にて、学生は奨励賞や努力賞を受賞している。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の標準修業年限内の修了率は、平均84%を超えている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間において、修了後に経営者となった者は10名となっている。
- 所属組織から推薦される社会人を対象にした組織推薦制度により社員を入学させた企業からは、修了生に対して「社内でさらに成長し、活躍している」、「自分の意見を活発に展開し業務を進めている」等の意見を得ている。

以上の状況等及びアントレプレナーシップ専攻の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- ノースウェスタン大学（米国）と連携した「特殊講義Ⅲ（ノースウェスタン大学集中講義）」を開講しているほか、成均館大学（韓国）と連携した日韓比較経営研修を韓国で実施している。
- 北海道大学大学院保健科学院及び農学院との間で MBA 特別コースの協定を締結しており、平成 24 年度からは、同大学院工学院、情報科学研究科及び総合化学院と、平成 27 年度からは、同大学院生命科学院と協定を締結して、学生の受入を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間において、修了後に経営者となった者は 10 名となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。